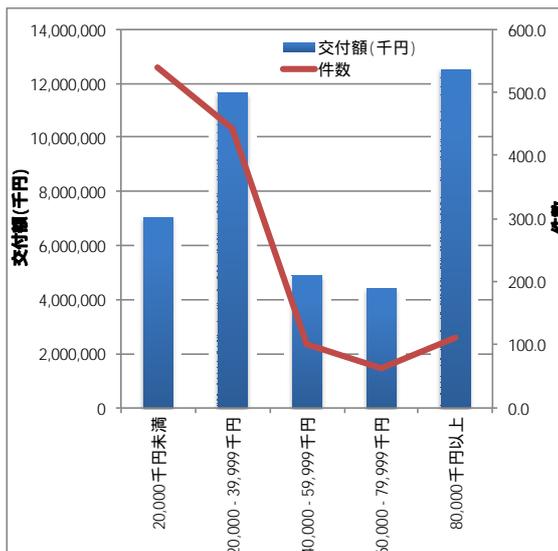


iii) 研究費規模

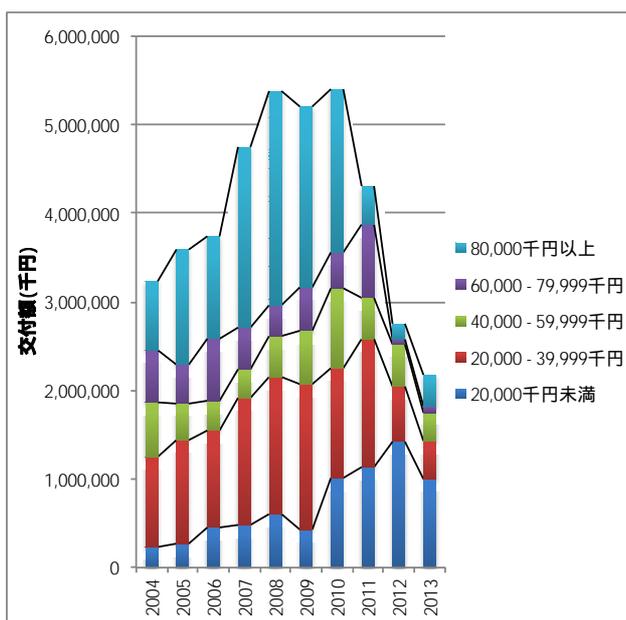
研究費を年額 2,000 万円未満、2,000～3,999 万円、4,000～5,999 万円、6,000～7,999 万円、8,000 万円以上の規模別に分類し、分析を実施した。研究費の総額では 8,000 万円以上の大型研究が全体の 3 割程度を占めていたが、件数では 2,000 万円未満の小規模の研究が最も多い結果となった。

	交付額(千円)	件数
20,000千円未満	7,033,029	540.0
20,000 - 39,999千円	11,646,934	442.0
40,000 - 59,999千円	4,902,036	102.0
60,000 - 79,999千円	4,415,072	63.0
80,000千円以上	12,525,014	111.0
合計	40,522,085	1,258.0

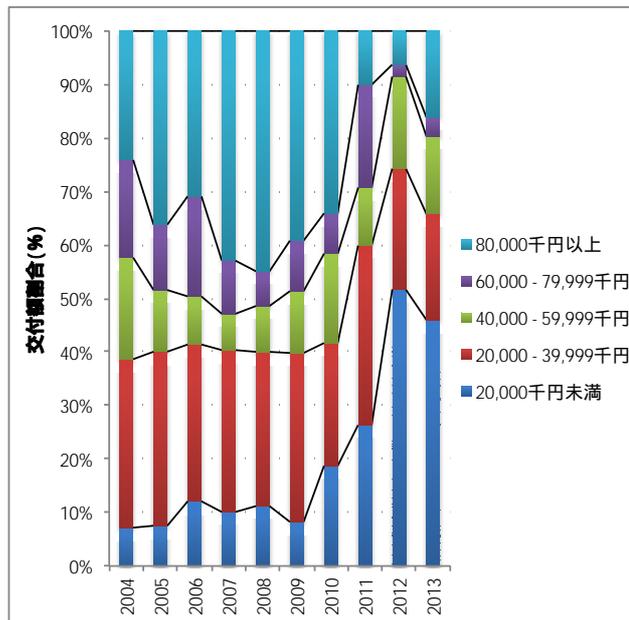


研究費規模を年度別に見ると、2,000 万円未満の小規模研究の件数は分析年度を通じてほぼ増加傾向あったが、その他の規模では分析年度の半ばで件数の増加を見せたものの、2013 年度には当初よりも大幅に少なくなった。その結果として、2,000 万円未満の小規模研究の割合が分析年度の後半にかけて大きく増加した。

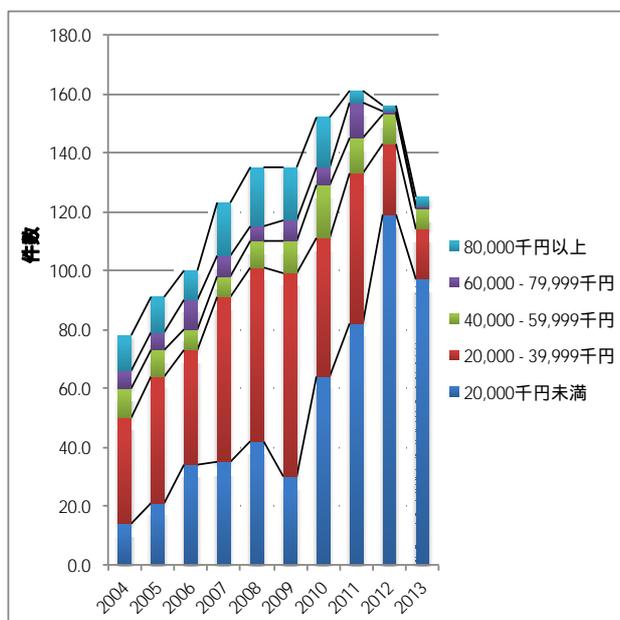
< 研究費総額 >



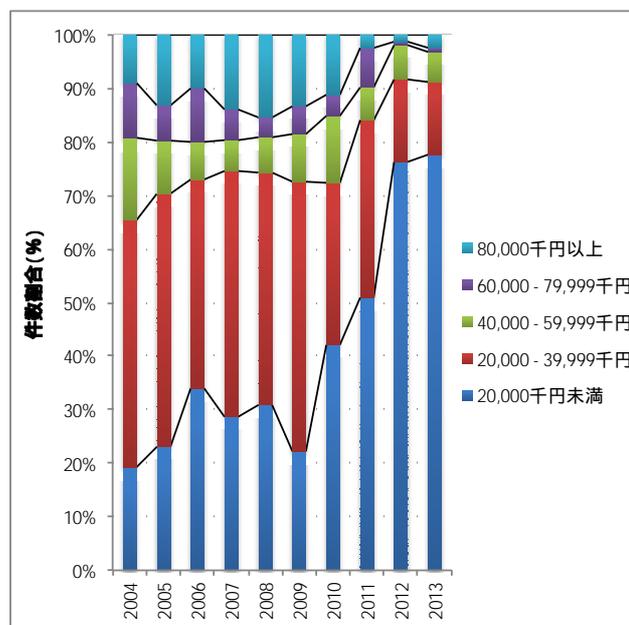
< 研究費割合 >



< 件数 >



< 件数割合 >



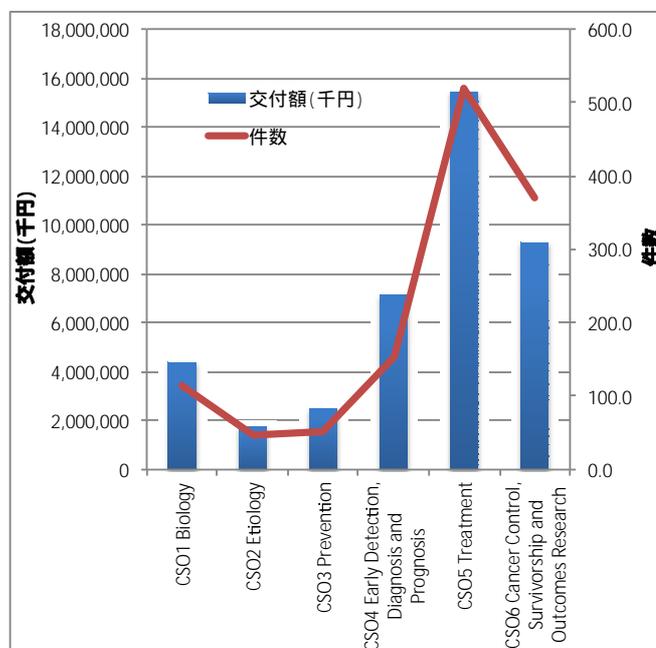
iv) CSO 分類別

CSO(Common Scientific Outline)分類は 1997 年に米国 NCI で乳がん・前立腺がんの研究に適用され、1999 年に大規模な検証と改訂が行われた。2000 年からは NCI の extramural 及び intramural 研究の分類に広く使われるようになってるとともに、NCI 外にも広まった。米国 NCI 及び Congressionally Directed Medical Research Program of the US Department of Defense (CDMRP) の主導により、欧米の 10 のがん研究費配分機関(Funding Agency, FA)からなる ICRP(International Cancer Research Partnership)が 2000 年に設立され、CSO が共通に使われている。ICRP には 2012 年時点で 57 の FA が参加し、CSO 分類を共有している。CSO の大分類(1 桁)は「方法」(2)に示した通りである。

第 3 次対がん 10 か年総合戦略のうち、厚生労働省が担当する 3 次対がん(=「狭義 3 次がん」+「がん臨床」)の 10 年間の研究費合計で見ると、CSO5 Treatment で最も多く約 154 億円で、次いで CSO6 Cancer control, survivorship, and outcome research の約 93 億円、CSO4 Early detection, diagnosis and prognosis の約 71 億円であった。最も少ないのは CSO2 Etiology の約 18 億円であった。件数では、CSO5 Treatment が最も多く、次いで CSO6 Cancer control, survivorship, and outcome research、CSO4 Early Detection, Diagnosis and Prognosis の順であった。一件当たり研究費の平均額は、CSO3 Prevention が約 4.8 千万円と最も大きく、次いで CSO4 Early Detection, Diagnosis and Prognosis が 4.6 千万円であった。

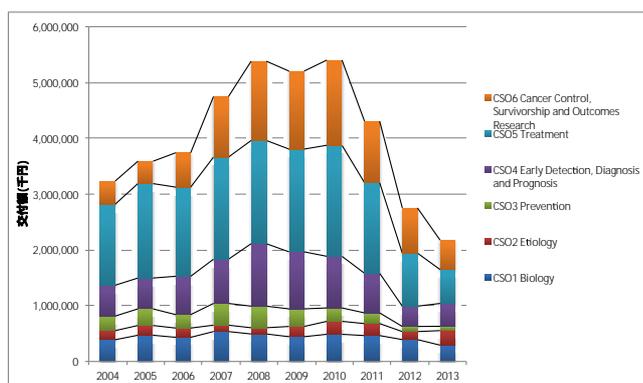
なお、今回、文部科学省の科学研究費や経済産業省等により行われるがん研究については調査対象外であったが、厚生労働省の 3 次対がんとは異なる CSO 分布を示す可能性がある。従って、本報告書で分析する 3 次対がんの特徴が、必ずしもそのまま我が国のがん研究費の特徴とはならないことに留意する必要がある。

	交付額 (千円)	件数	一件あたり 平均(千円)
CSO1 Biology	4,396,807	115.0	38,233
CSO2 Etiology	1,761,039	47.0	37,469
CSO3 Prevention	2,488,709	52.0	47,860
CSO4 Early Detection, Diagnosis and Prognosis	7,135,281	154.0	46,333
CSO5 Treatment	15,435,829	519.5	29,713
CSO6 Cancer Control, Survivorship and Outcomes Research	9,304,421	370.5	25,113
合計	40,522,085	1,258.0	32,212

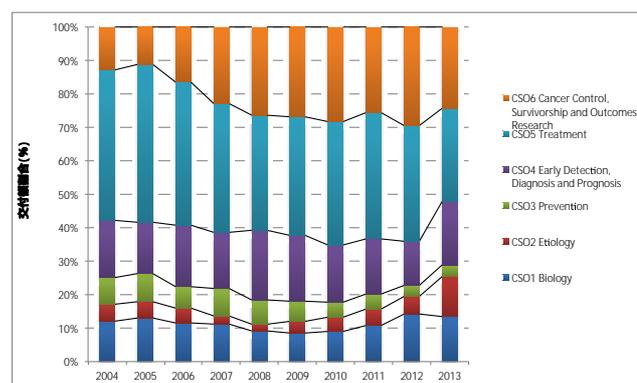


研究費配分の年次推移では、CSO 分類間で差が見られる結果となった。2006 年から 2008 年にかけて、CSO6 Cancer control, survivorship, and outcome research への配分が増強されており、研究年度を通じて研究費配分は増加傾向にあった。同様に CSO2 Etiology も研究費総額は少ないものの、研究年度を通じて毎年ほぼ同程度の研究費が配分されていた。一方、CSO3 Prevention および CSO5 Treatment では、当初配分額と比較すると途中微増したものの減少傾向に転じ、最終年度には厚労科研費難病・がんの研究費が増額されていることもあり、当初に比較して大きく減少していた。研究課題の件数も、研究費とほぼ同様の傾向を示した。

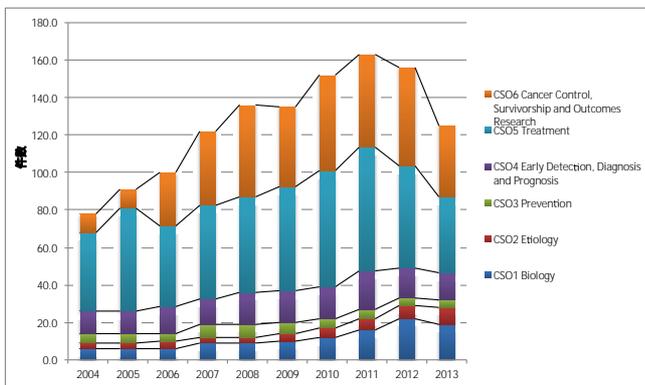
< 研究費総額 >



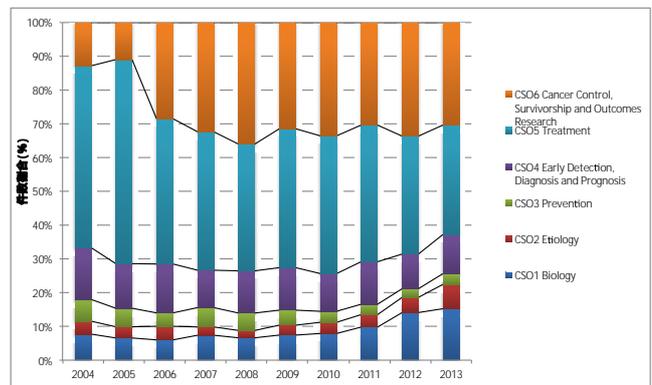
< 研究費割合 >



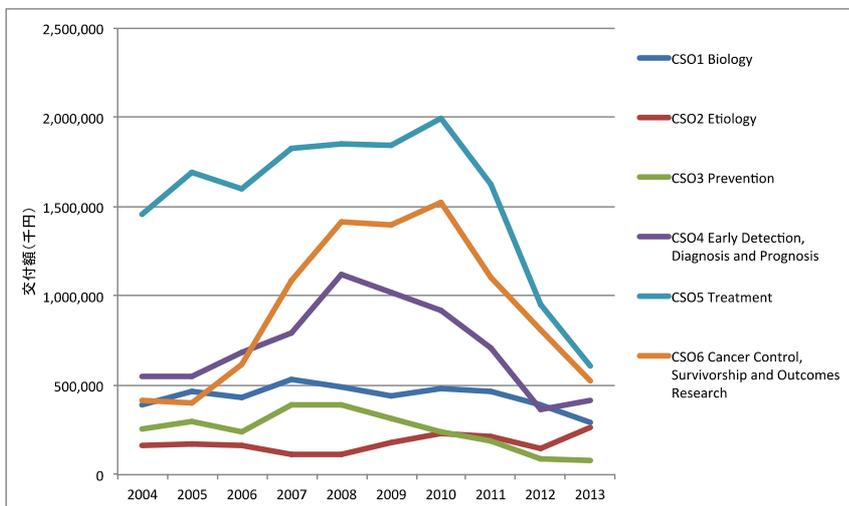
< 件数 >



< 件数割合 >



< 研究費年度推移 >

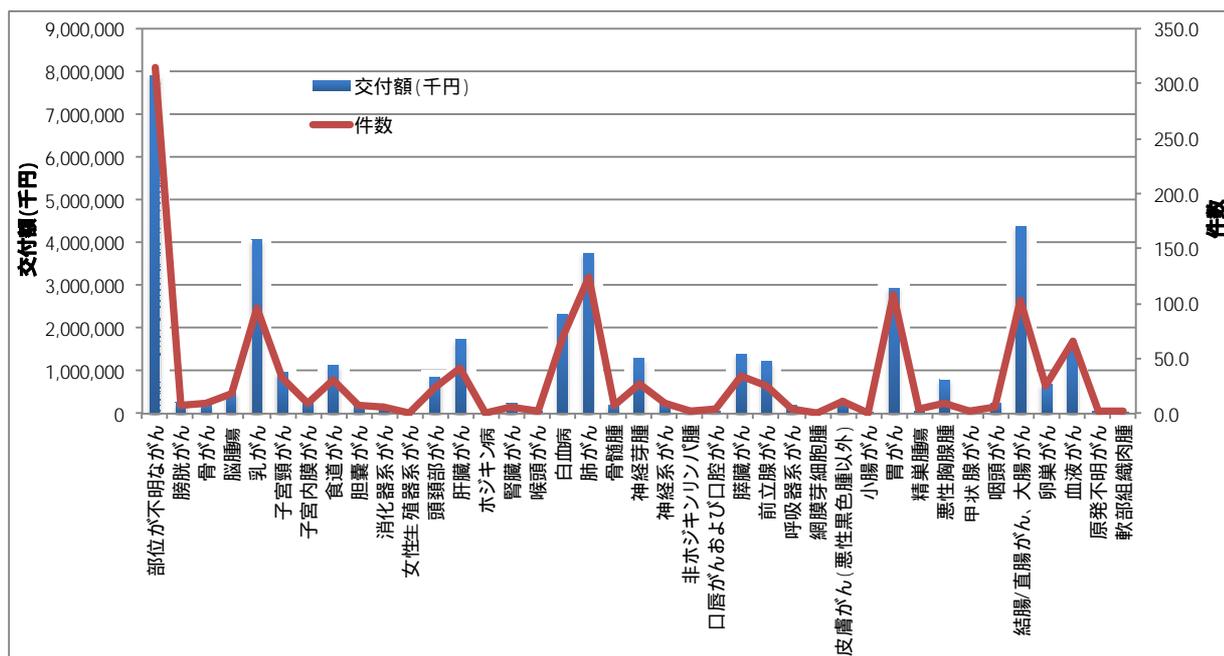


v) がん部位別

がんの部位のコーディングについては、ICRPはICD-10に対応するコード体系を設定している。3次対がんの研究課題を部位別に分析すると、研究費総額が最も大きかったのは、特定の臓器に限定されない研究等を含む「部位が不明な」を除くと、結腸・直腸がんが約44億円、次いで乳がんの約41億円、肺がんの約38億円であった。件数では、肺がんが最も多く約125件、次いで胃がん、結腸・直腸がん、乳がんの順であった。なお、部位が特定されない研究費総額は約79億円、314件と最大であった。

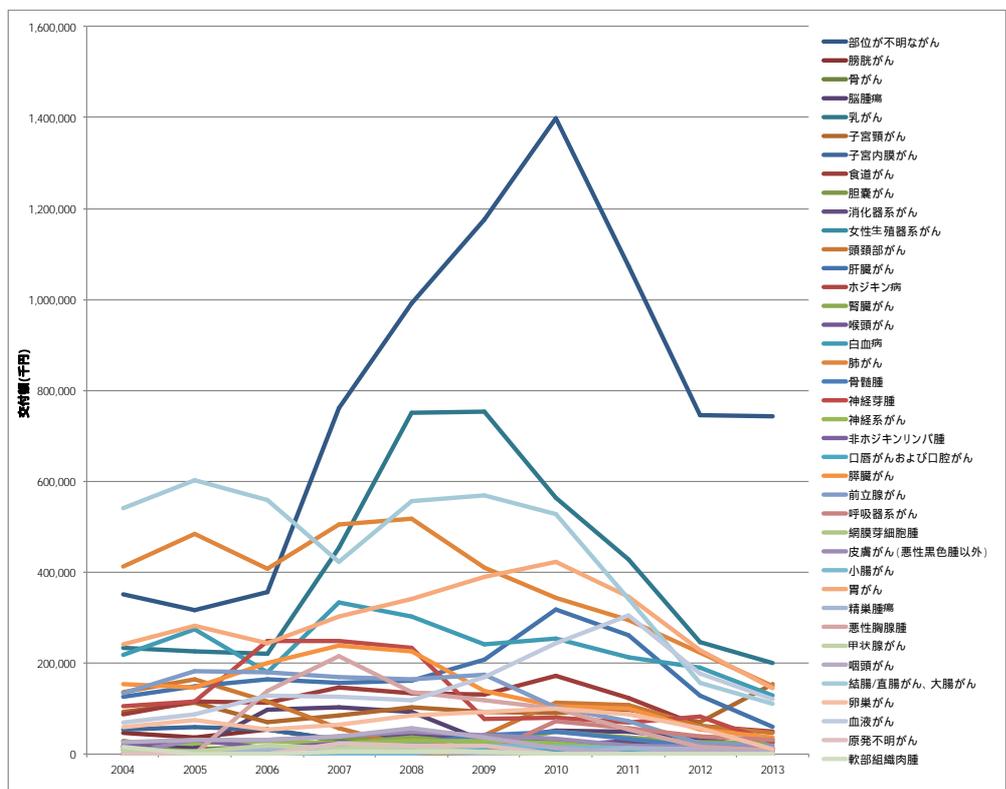
一件あたり研究費は悪性胸腺腫が最も多く平均で約8.6千万円、次いで呼吸器系がん、小腸がんであった。

	交付額 (千円)	件数	一件あたり 平均(千円)
部位が不明ながん	7,914,000	314.1	25,196
膀胱がん	266,556	8.2	32,408
骨がん	191,060	8.8	21,609
脳腫瘍	498,123	17.4	28,549
乳がん	4,074,683	96.2	42,347
子宮頸がん	971,782	32.4	29,959
子宮内膜がん	300,576	9.9	30,240
食道がん	1,133,669	29.9	37,952
胆嚢がん	185,609	8.2	22,513
消化器系がん	162,073	6.5	24,934
女性生殖系がん	13,637	0.5	28,847
頭頸部がん	856,768	23.7	36,141
肝臓がん	1,733,498	41.1	42,137
ホジキン病	1,622	0.2	7,300
腎臓がん	240,879	5.2	46,249
喉頭がん	65,942	2.8	23,274
白血病	2,333,538	70.5	33,100
肺がん	3,750,994	124.6	30,092
骨髄腫	187,787	7.7	24,280
神経芽腫	1,288,102	27.1	47,473
神経系がん	212,912	10.0	21,291
非ホジキンリンパ腫	108,784	3.0	36,261
口唇がんおよび口腔がん	52,797	4.2	12,671
膵臓がん	1,403,142	33.4	42,004
前立腺がん	1,220,415	25.9	47,042
呼吸器系がん	198,362	4.0	49,591
網膜芽細胞腫	5,914	0.3	19,713
皮膚がん(悪性黒色腫以外)	276,459	11.8	23,429
小腸がん	48,496	1.0	48,496
胃がん	2,944,894	108.7	27,103
精巣腫瘍	58,382	4.5	12,974
悪性胸腺腫	792,824	9.2	86,490
甲状腺がん	65,366	2.0	32,223
咽頭がん	245,369	5.2	47,586
結腸/直腸がん、大腸がん	4,386,370	103.5	42,388
卵巣がん	686,483	24.9	27,621
血液がん	1,546,330	66.6	23,219
原発不明がん	60,651	3.0	20,217
軟部組織肉腫	37,237	1.5	24,454
合計	40,522,085	1,258.0	32,212



件数に関しては、一つの研究で複数のがん部位をカバーしている場合、件数をそれぞれの部位に配分した

部位別の研究費を年度別にみると以下のようになっている。



研究費総額の多い部位別の研究費総額と件数の年次推移を以下に示す。

